

## 平成 22 年度事業計画

### 1. 教育研究助成事業：

#### 神奈川県内の大学発展のため教育研究助成及び産学官連携の助成及び学生への支援活動

- ① ビジネスプランコンテストは、昨年度に続き学生実行委員会の主体的推進体制を支援し、横国大の特徴であるゼミを中心に参加チームを全学規模で募集開催する。

予選：平成 22 年 10 月 23 日（土）、決勝：10 月 31 日（土）＜大学祭当日＞の予定。  
前回実施のメンター制を活かし、発表内容の充実を目指す。成績発表後の懇親会で学生と卒業生との交流の場が定着、この流れを更に拡大・継続をはかっていく。

- ② NPO 法人 YUVE C 事業への参画

21 年度に引き続き、法人会員として参画・連携していく。

- ③ 個別就職相談の常設、連携講義開設、インターンシップなど学生への支援活動

(イ) 学生が大学で受けた教育の成果を実社会で適切に発揮し、社会貢献できるため

に、学生と職場のミスマッチを防ぐよう大学と共催で個別就職相談を充実させる。年々口コミで相談学生数が拡大しているため、従来の相談員に加え、新たな業界・若手のメンバーも加え 15 名体制に充実。景気低迷により就職戦線も激戦の折柄、4 月からは相談日を従来の週 3 日を週 4 日に増やして対応。昨年度から実施のキャリア相談は、大学からの要請に応じて 4 月、10 月に実施し、将来の進路の相談や社会で活躍するための社会人基礎力養成のアドバイスをしていく。

(ロ) 連携講義は 6 年目になるが、定着して学生の関心はより強くなり、この講座を通して講師の話が学生の心に灯をつける役割を実感できている。学生の要請に応じて若手、女性の講師も含めて、4 月 12 日からスタートしたが、受講登録は約 300 名。現在は主に後期に就職活動に入る 3 年生の前期をターゲットにして、進路を決める参考にと、いろいろな業種で活躍する先輩の体験談をその内容にしている。更に、企業等社会が学生に求めるのは、「学生時代に何をやったか」であり、学生時代に深掘した勉強や体験が差別化要因であることから、連携講義に加えて、早い段階からのもう一つの講座として、主に 1、2 年生をターゲットにした「将来を見据えた上で、大学時代をどう過ごすか」をテーマの講座（相談会）を 4 月、10 月のオリエンテーション日に開講する予定。

(ハ) インターンシップの意義を理解し希望する学生が増加する傾向に対応して、窓口

を 5 月より開設し、事前に体験、習得すべき事項等を相談し、指導していく。

- ③ 横浜国大創立 60 周年記念募金事業への協力

・ 期間：2012 年 3 月 31 日まで

- ・ 富丘会員目標 10,000 千円、富丘会報発行時に会員に協力を呼びかけていく。
- ・ 企業に対しては大学に連動して協力していく。

## 2. 経済問題等に関する講演会等の開催

(イ) 富丘経済研究会 演題・予定

第1回 4月28日「政治システムと政局」

第2回 5月27日「サッカーとスポーツビジネス」

第3回 6月24日「始まっている未来？新しい経済学は可能か」

第4回 7月27日「世界化する英語支配の中で日本語はどうなるのか---米中日の文化史的三角関係を振り返る」

講師・講演内容好評につき、会員拡大を目指します。

(ロ) 神奈川二木会 演題・予定

第1回 4月 「中国経済史から考える」

第2回 6月 「どうなるか、日本経済」

## 3. 富丘会報の発行事業

- ① 内容:学生会員導入から5年目、学生会員のページを開設したが、更に充実を図る。様々な層からの投稿、各種分野で活躍している会員紹介、インタビューに加え、大学の情報を会員に伝えるために、大学の教育・研究・地域貢献等に関する情報も更に充実させ、大学と会員との情報交換の場としていきたい。
- ② 発行部数: 5,000部~9000部
- ③ 発行回数/時期 3回/8月、12月、3月
- ④ 配布先: 賛助会員、学生会員、大学、関係官庁、関係企業、友誼団体等

## 4. 会員の交流に関する事業

① 総会の開催

(イ) 時期 7月11日(日)

(ロ) 会場 パンパシフィック横浜ベイホテル東急

(ハ) 対象者 賛助会員、大学、友誼団体 (出席予定 600名)

若い会員、学生、他学部同窓生、大学教員の方の参加増を目指し、世代を超えて、大学と同窓会の将来を共に語り合う総会、親睦会を指向する。

(二) 講演会 講演テーマ:「アウトプットよりアウトカムを~光触媒を例にして」

講師: 東京理科大学学長 藤嶋 昭氏

② 賛助会員原簿の管理

(イ) 原簿の管理 会員の異動を都度連絡してもらい、個人情報保護法を遵守しリアルタイムに更新していく。

(ロ) 会員名簿作成 2010年11月発行を目標に進行中。基本仕様はA4版の冊子型。

### ③ 富丘会組織の活性化・同窓会連合活動の推進

- (イ) 地域富丘会、職域・業界富丘会、OB会、同期会を中心に、ゴルフ・囲碁・俳句・合唱等各種趣味の会なども含め、活性化と未組織地区・職域の組織化に取り組む。そのためにはリーダーの掘り起こしと、総会幹事会以外にも幹事・リーダー会を開催して、情報交換の会を開催して富丘会への関心を高めて参画意欲を促進して富丘会活動の更なる進化を目指す。

他学部と合同で運営されているグループの運営も広げたい。

- (ロ) 富丘会ホームページのタイムリーな更新と内容の充実

HP委員会が充実され、富丘会HPを2月にリニューアルできた。今後、内容を充実し財団法人の情報開示を心がけていくと同時に登録会員を増やしていく。

- (ハ) 第5回 ホームカミングデー 10月30日(土)開催

今回も大学・同窓会連合共催で今年の実行委員長は工学部同窓会。

内容の充実と参加者の動員活動を図る。富丘会は今年は昭和44年卒が中心に実行委員を務める。

### ④ 若手会員の組織化

- (イ) 学生富丘会員について

22年度も社会科学系3部局長及び事務当局のご協力を得て、186名の入会があった(昨年度は通年で184名)。本年3月には初めて学生富丘会員が卒業し、賛助会員へ加入手続き中。

1,2年生の学生会員対象に将来の進路計画の参考にしてもらうために、4月、10月のオリエンテーション日に交流・相談会を実施する計画。「学生時代にはこれをやった」と誇りをもって進路を決められるようにアドバイスをしていく。

- (ロ) 20代、30代の組織化

若手の声として、富丘会員の交流の機会を望む声が出てきているので、まずは総会、HCD等への参加促進を通じて若年層の組織強化を幹事開拓を含め図っていききたい。

## 5. 富丘会財政基盤の安定化策

富丘会の事業継続、発展のためには財政基盤の強化が必要であるので、会費収入の停滞傾向を打破するため、基本的には、富丘会活動を活性化し、行事・活動状況を告知して参加を促進し、富丘会存続発展の必要性を認識してもらうことが第一。

折に触れ、会費納入を呼びかけ続けること。平成21年1月からスタートした「富丘会運営基金」の存在を継続してPRしていく。